

生活環境をよくするための 『緊急整備事業』

昨年は126件を処理・窓口は市民相談室です

住民の生活環境をよくするための「緊急整備事業」が市民相談室に開設され、今年で2年目になります。この「緊急整備事業」は、住民の皆さんから環境の整備、改善などにつ

いて要望があり、これらの内容や規模が、この事業に適合すると認められた場合は、緊急に整備するというものです。

皆さんからの要望の大半は、側溝の甲ブタ設置や、道路舗装の一部補修などで、昨年1年間で126件(499万7,000円)を処理しました。

その内訳は、甲ブタ設置49件、側溝補修21件、舗装

補修17件、水路改修11件、路肩補修他28件となっています。

この事業は、あくまでも小規模かつ緊急に処理を要するものとし、その経費(予算)は、1件について10万円を限度として、要望の受付は、市役所2階、市民相談室で行っています。

また、ことしの予算額は1,000万円で、8月末現在すでに83件の570万円が処理されています。

また、地区別では吉原、今泉地区が一番多く、ついで富士駅北、岩松田子浦地区の順になっています。



郷土の歴史と文学を

=図書館の文化講座=

第11回図書館文化講座が、9月21日から市立中央図書館で開かれました。この講座は、市立中央図書館が市民の皆さんにより広い知識を得るために学習していただくよう毎年開いているものです。

今年、5回の学習会が予定されており、第1回目は、駿河郷土史研究会々長の鈴木富男先生が、富士市の古文書の中から『うまやじの鈴』をわかりやすく、ユーモアをまじえて話してくださいました。

会場は、郷土の歴史に関心を持った、若い人からお年よりの受講生で満員となり、熱心に耳をかたむけていました。【写真・ふるさとの歴史を熱心にきく受講生】



自動販売機をみて

〔こえ〕市内各所に、自動販売機が置かれていますが、少しの振動で倒れる危険性のあるもの、通行の安全を阻害するおそれがあるもの、又、清涼飲料水等は別として有害図書自動販売機が見受けられます。行政指導をお願いします。

(厚原 Kさん)

〔こたえ〕自動販売機が振動で倒れるとか、道路上に出ていて通行

の安全を阻害するもの等については、道路パトロール等で発見しだい注意指導をしています。今後も警察、県と協議し指導していきます。

(市建設部管理課)

自動販売機による有害誌追放運動には、積極的にとりくんでおり成果も着々とあがっています。今後更にこの運動を進めるため、市民の協力と県の行政指導を、期待しています。又、有害誌を家庭に持ちこまない運動として、市内各地に白ポストを設置しております今年度末までには合計24カ所設置されますので、みなさんのご協力をお願いいたします。

(市青少年補導センター)

一時金を支給します

旧軍人としての勤務年数が合せて3年以上ある人で恩給や共済年金などを受けたことのない人に一時金が支給されます。

該当と思われる人は、10月1日から請求手続きをしてください。受付窓口は市福祉部社会課社会係(内線270番)です。